

会報

山口七夕会

令和7年（2025年）9月

第58号

発行：会報編集委員会／事務局

題字／書・原野和夫氏



【山口市役所新本庁舎】

< 目 次 >

秋草会長挨拶	3
令和7年度年次総会(報告)	4
武内 衛子 本部顧問の追悼	8
再びつながった山口とのご縁 ～七夕会入会のきっかけ～	9
中国 西安・咸陽の旅で学んだこと	10
半日観光から滞在型へ ―五重塔を起点とした山口市の可能性―	12
わたしと「やぎさん」	14
新入会員及び法人会員の皆さん／山口七夕ふるさと大使委嘱者	15
役員一覧	16
イベント等のお知らせ	17
<山口市役所より>「地球の歩き方 山口市」発売開始	18
投稿募集／役員募集／公開名簿掲載承諾のお願い／メールアドレス登録のお願い	19
事務局からのご案内／編集後記	21

※会報は山口七夕会のHPにもアップします。カラー版をHPでお楽しみください。

会長挨拶

手ごたえあり新しい七夕会



今年は全国的に梅雨が短く、すでに 6 月中に「暑い夏」になってしまいました。少しでも涼しく七夕会総会をと考え、例年の暑い 8 月開催を前倒しにできないか検討しました。ご参加下さる皆様のスケジュールを調整し、ギリギリ 7 月第一週の土曜日に開催させて頂きましたが、それでも結果は「暑い総会」になってしまいました。山口からお見え頂いた山口市長・市議会議員のほか、山口市役所関係の皆様、首都圏在住の会員の皆様も暑い中、体調大丈夫だったでしょうか？ 特に今年は各種報道で「暑い都市」の中に山口市の名前が何度も登場し、故郷が有名になるのは嬉しいものの、果たして名誉なのか？とも感じた次第でした。そうした中で山口市長様からお話し頂いた新山口市誕生 20 周年と山口市役所の新築移転事業など面白く聞かせて頂きました。

さて先般から「新しい考え方の七夕会に向けて」という趣旨で、役員の皆さんにも新しい七夕会の在り方について、いろいろ議論と考えて頂いてきました。山口市から公認された団体の山口七夕会が「山口市の発展に寄与する」ためには、ふる里山口市にまつわる色々な事柄を首都圏で紹介したり、山口市の名前を広めたりすることが大切です。さらに山口市の出身者だけでなく山口市に興味がある、何らか山口市にゆかりがある方々にも輪を広げ、七夕会の活動を活発にしていけることが大切です。こうした考え方に繋がる動きが出てきた事を紹介したいと思います。それは今回の総会・講演会で「地球の歩き方」の編集の方々が参加・講演をして下さったことです。そしてこの秋に出版される「地球の歩き方・山口市版」のお話を頂きました。自分達では気付かない山口市の魅力や価値を改めて外からの視点でご説明頂き、「目からうろこ」という感じでした。

それに加えて、今回の総会と懇親会にご参加頂いた方々の雰囲気やご意見にとっても暖かいものを感じました。この会に来てみて良かったとおっしゃる方もおられて、何か手ごたえを感じました。会員相互の交流が以前にも増して行われているのを肌で感じた次第です。さらに、若い山口市出身の会員の方で自ら note を開設して、山口市を宣伝して下さいている頼もしい方も出てきました。食事や観光に対するアドバイスも含め「山口でこんな事が出来る」という情報の発信です。これを見ても七夕会の活動の内容も広がりや深みが増してきたことが分かります。SNS での情報の発信、市のキャラクター等を使った宣伝など人の繋がり・ネットワークを活用した若い人達の活動などが次に繋がってゆきます。従来から行っている特産品の首都圏での販売協力も大切な活動ですが、それだけに留まらずさらに発展させ、興味のある方々にその輪を広げていく努力をし、新しい活動の方向を探りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

令和 7 年（2025 年）9 月
山口七夕会 会長 秋草史幸

令和7年度年次総会（報告）

本部・本部長代行 西村 弘文（会員 No. 464）

令和7年7月5日（土）、山口市から伊藤市長、入江市議会議長をはじめとする幹部及び事務局の方々をお迎えして、飯田橋のインテリジェントロビー・ルコにて令和7年度年次総会が開催されました。今回は酷暑を避けて昨年よりも1か月早い実施としました。梅雨時のため雨への懸念がありましたが、一定の効果があつたように思います。前回の総会で会則を改正し、総会の開催時期の規定を削除しましたので、更なる前倒しについて、案内の時期や事務的事項の処理を含めて検討を進めます。総会は出席者36名、講演会には64名、交流会には57名が参加しました。

総会は、秋草会長の開会挨拶から始まりました。秋草会長は、暑い中での参集に感謝する旨と、創設から26年間、山口市を盛り上げることを目的として活動しているが、本日の講演会では「地球の歩き方」編集長から山口市の歩き方について解説していただき、今の山口を知り、我々の役割を改めて考える機会にしたい旨、述べました。

総会第一部の構成は、①令和6年度事業報告・同決算報告・監査報告、②令和7年度事業計画・同予算説明、③会長・評議員・監査役の選任、④本部・ふるさと山口本部各役員の紹介でした。

令和6年度の事業と決算について藤井本部長と申神ふるさと山口本部長のそれぞれから報告がなされ、また大枝監査役から監査報告がなされ、異論なく承認されました。続いて令和7年度事業計画案及び予算案についても同様に承認されましたが、特記事項がいくつかありました。主に会勢拡張の観点から、会の活動の状況をSNSで発信して認知度の向上を図ります。同様に、在京の同窓会にアプローチして勧誘機会の拡大を図ります。また、七夕会が主催するイベントにおいて法人会員が当該法人のPRや商品展示を行うことを是とすることにより、入会のインセンティブ強化を図ります。初の試みとして、日本国際保健医療学会の会場に七夕会のブースを出展して山口市及び七夕会のPRを行い、観光客誘致にも努めます。これらに必要な経費を予算案に盛り込みます。

会長・評議員・監査役の選任については、提示案の通り承認されました。本部及びふるさと山口本部の役員が報告されて今年度の陣容が整いました。細部は会報に記載しています。

総会第二部は、宮原企画経営課長の司会により進められ、その構成は、①伊藤市長のご挨拶と市政報告、②入江市議会議長のご挨拶、③山崎山口県東京事務所長のご挨拶、④山口七夕ふるさと大使の委嘱式でした。

伊藤市長から、山口市に係る山口七夕会の諸活動に対する感謝の言葉が述べられた後、市政報告がテンポよくなされました。市政報告では、トピックスとして4点が紹介されました。1つ目は新本庁舎が完成し、5月7日に開庁式が執り行われたことについて。新本庁舎の特徴は、①市民が快



秋草会長挨拶

適な市役所を目指して、「書かない、待たない」総合案内窓口を設置したこと、②災害に強い、優れた免震性を有していること、③使用するエネルギーを従前の 50% に抑えた省エネ設計であることの 3 点とのこと。一方、旧庁舎については、6 月 1 日に閉庁式を開催するに当たり、5 月末の 10 日間をかけて「サヨナラ旧庁舎プロジェクト」を展開、「橋をわたす」をテーマにアート展覧会を開くと共に、子供たちに自由に落書きをさせて、アートで旧庁舎を見送ったとのこと。今後も市民交流棟の整備やパークロードの延伸を企画しており、全体の完成は令和 10 年 8 月を目指しているとのこと。2 つ目は、湯田温泉の「こんこんパーク」が 6 月 1 日にオープンしたことについて。街の中心という素晴らしい立地を活かした、全天候型の屋根付き運動広場と温泉施設が併設された市民の交流拠点を目指しており、温泉施設は午前 6 時から利用可能とのこと。オープンから 1 か月で 28,700 人の利用実績があるとのこと。3 つ目は、9 号バイパスの整備について事業化が決定したことについて。4 つ目は、自治体が国際社会と関わるための橋渡し役を担い、地域の魅力を世界に発信する活動を支援する一般社団法人である、自治体国際化協会への人員派遣を強化することについて。これまでも同協会のシンガポール事務所に 3 名を派遣してきた実績があるが、新たにニューヨーク事務所に 1 名を派遣するとのことでした。

次に、新市政誕生 20 周年について説明がありました。この 20 年間に行われた街づくりの歩みと市民サービス向上施策の歩みの紹介の後、記念事業として「地球の歩き方 山口市」が発売されることが紹介されました。もちろん、先行予約販売についての PR も付いていました。

最後に、来年は山口市を舞台にディスティネーション・キャンペーンが展開されるため、市としてもしっかりと誘客に努めたいとの抱負と、これからも元気な山口を創っていくので支援をお願いしたいとの要望が述べられました。

入江市議会議長からは、新本庁舎 6 階の議場で最初の市議会を開いた際には自然と気が引き締め、今後の山口市の運営に思いを致したとの感想の他、七夕会の活動への感謝が述べられました。また、「地球の歩き方 山口市」の発行が、改めて山口市の再発見に繋がるとの期待と、再訪したくなる街づくりに努力する旨が述べられました。

山崎山口県東京事務所長からは、首都圏山口ネットワーク推進協議会の活動内容や近日予定の東京周辺での山口県関連行事の紹介があり、山口県東京事務所としても来年のディスティネーション・



伊藤市長市政報告



入江市議会議長挨拶



山崎山口県東京事務所長

キャンペーン開催に向けて周知に努めているところ、引き続き山口の魅力発信に協力してほしい旨の言葉がありました。

山口七夕ふるさと大使の委嘱式では、浦前さん、川瀬さん、山本さんの3名が新規の、白洲さん、徳久さんの2名が再任の大使として、伊藤市長から委嘱状を手交され、代表して山本さんから就任の挨拶がありました。



山口七夕ふるさと大使の皆さん

講演会では、「地球の歩き方 山口市」の制作記念講演として、編集長の由良暁世さんから、地球の歩き方誌の作成に関わるあれこれや山口市版への思いを伺いました。導入は、紙面がどうやって作られるかについて。同誌は、1979年発行の「アメリカ」と「ヨーロッパ」の2冊からスタートしたとのこと。現在では160の国と地域を扱うようになったが、中には島旅編、御朱印編といった変わり種の他、読み物シリーズもある。作り方としては、約200名居るスタッフの支援を受けつつ、製作スタッフが日本から出発して現地に赴き、そして帰国する過程の中で取材した、空港事情を含め旅人が必要とする情報を綴っていくとのこと。インターネットやSNSの情報は勿論、生活に密着した現地情報をふんだんに含んでおり、良質な情報の集合体であると自負しているとのこと。地球の歩き方「らしさ」については、①旅人目線、②各エリアのプロが定期的に現地取材することによる、徹底した取材力、③歴史や文化等、旅行後も使えるネタの多さ、の3点とのこと。苦労話としては、コロナ禍で旅行者は減り、取材にも行けなくなり、売上が95%減となって、2020年には事業譲渡せざるを得なくなったそうで、売れるものはないかと、国内シリーズや旅の図鑑シリーズを作ったのはこの時であり、エコバックやレトルトカレーなどのコラボものも生まれたのだとか。



講演中の由良編集長

国内版の制作については、東京オリンピックと「地球の歩き方」創刊40周年に合わせた「東京編」が最初であるが、これがヒットしたことで地元再発見のニーズを発見でき、現在は24タイトルにまで増やしている。国内版の特徴は、①その地域にまつわるランキング等のデータが豊富、②グルメについては店のこだわりや歴史まで記載、③地元民の口コミが豊富、とのこと。地域選定のキーワードは「地元愛」で、これが強い地域を選んでおり、自ずと最初は地元で売れるそう。地域版を地域振興に繋がたいと、出版イベントを開催したり、地元企業とのコラボレーションを図る等、熱を切らせないことに努めているとのこと。市括りの3作目となる「山口市版」を作った理由は、①ニューヨークタイムズ社の「行くべき52か所」に選ばれたこと、②有名所ではないが、リサーチすると歴史、文化等に魅力があること、③2025年が新市政誕生20周年の記念イヤーであること。山口市の魅力はコンパクトな街にオーセンティックな日本の良さが詰まっているところであり、文化、自然、店舗、人々を1年半かけて山口市版に詰め込んだとのことでした。

交流会は関幹事長の司会により、いつものように和気藹々とした雰囲気が進められました。会場の一角には山口市特産品を紹介するコーナーが設けられて人目を引いていましたが、中でも、大内塗夫婦びなの結婚式用ウェルカムボードは愛らしく、息子の結婚時には買い求めようと思いました。

八木顧問の発声による乾杯で始まり、おいしい弁当を頂きながらスピーチの時間。今井商工振興部長からは市役所のPRとふるさと納税のお願いが。首都圏に住みながら生まれ育った故郷に恩返しする手段として、山口市から公認を受けている山口七夕会としてはふるさと納税を推奨していますので、ご協力をお願いします。

次に、初参加となる4人の会員から挨拶を頂き、地球の歩き方社のスタッフから、10月9日発売予定の「地球の歩き方 山口市」の購入申し込み方法についての説明がありました。地球の歩き方社には、「山口市版作成よもやま話（仮題）」を次の会報1月号に寄稿していただきますので、記事を楽しみにしててください。もちろん、購入もよろしくお願いします。なお、本の奥付には「山口七夕会」の文字が入るはこびとなり、会としての記念になると思います。最後は津和野東京事務所の佐伯さんに挨拶を頂きました。

アトラクションとしては、秋草会長とのじゃんけん大会です。今回の賞品は、法人会員である湯田温泉旅館協同組合から購入した「ゆだうるるフェイスマスク」と、山口市提供の「寒漬」で、会場が盛り上がりしました。

今回の懇親会は、いつにもまして会員間の往来が活発でした。初参加の方が4人おられたことありますが、食事が一段落した後は、席を立てて話をするグループがいくつもでき、交流の輪が広がりました。山口市及び東京出向中の若手職員の皆さんが所狭しとサーブ等の支援をしてくださったことも、会場の雰囲気を盛り上げてくれました。時間はすぐに過ぎ、岡村総合政策部長による一本締めで中締めとなりました。



ウェルカムボード



じゃんけん大会（秋草会長と関幹事長）



テーブルショット



サーブ支援中の市職員の方々

武内 衛子 本部顧問の追悼

長く本部の副本部長及び顧問を務められた武内 衛子 様が8月にお亡くなりになりました。同じく本部顧問の山根和也さんに武内さん追悼の絵を描いていただいたので、掲載します。



戦友である武内衛子さんに長年の感謝を込めて感謝状を描いてみました。小花ですが大好きなマツバボタンです。 山根 和也

再びつながった山口とのご縁 ～七夕会入会のきっかけ～

樋口 敬恭（会員 NO. 684）

山口七夕会に入会したきっかけは、数年前に参加した社会の課題をテーマにした勉強会でした。東京・丸の内で、様々な職業の人たちが集まり、テーマごとに語り合う場が設けられており、私が参加した「地域活性化・山口」もそのひとつでした。最終日の打ち上げの席で、同席されていた山縣さんや梶山さんからお声がけいただき、2018年に七夕会へ入会することになりました。私は山口大学時代に4年間山口市で過ごしましたが、卒業後は訪れる機会がめっきり減っていました。それだけに、七夕会を通じて再び山口とのご縁ができた事は、とても嬉しい出来事でした。

久しぶりに山口を訪れたのは、今年の3月の「第三回こころを語る会」に参加するためです。きっかけは、友人が大学時代に指導を受けた恩師からの招待で、私も同行させてもらいました。この会は、様々の分野で活動する方々と共同で開かれ、社会人として誰もが経験する「こころの回復力」をテーマに掲げていました。講師の先生は理系の研究者でありながら、心理学にも造詣が深く、「レジリエンス＝再生の力」の重要性について熱心に語られていました。人生の中で嵐に見舞われ、心が折れそうになる時も、やがて夜が明け、朝日が差し込むように再び立ち上がる力が私たちには備わっている。そんな言葉が胸に深く沁みわたり、日々を歩む勇気を与えてくれました。先生の真摯な語りに、私自身も希望の大切さを感じました。

今回の訪問には、観光ももう一つの目的としてありました。まず足を運んだのは、大村益次郎の資料館「鑄銭司郷土館」です。益次郎は幕末から明治維新にかけて活躍した兵学者であり、司馬遼太郎の『花神』の主人公です。身分の低い地方の村医者から身を起こし、実力で他藩や江戸へと活動の場を広げ、やがて明治政府の陸軍創設に尽力したその生涯は、幕末史好きとして惹かれるものがありました。その後は雪舟庭園にも足を運びました。閉館間際の静けさに包まれた庭園は、禅寺特有の凛とした空気感をまとい、時間がゆったりと流れていました。貸し切り状態で味わった枯山水庭園の美しさは、心に残る体験でした。さらに道場門前商店街も散策しました。かつての面影を残す通りには、昔ながらの店構えが並び、懐かしさを誘います。その一方で、シャッターが下りたままの店舗も目立ち、人口減少の影響が街にじわりと広がっている現実を感じさせました。それでも、どこか温かみのある佇まいは、今も変わらずこの街の魅力のひとつだと思います。山口市は昨年、ニューヨーク・タイムズの

「52 Places to Go in 2024」で第3位に選ばれています。歴史ある街並みや文化財、豊かな温泉と美味しい食事も揃い、2～3日かけてゆっくりと巡る旅にぴったりです。これからも山口七夕会が紡ぐご縁を通じて、この街の魅力がより多くの人々の心に届き、静かに息づいていくことを願っています。



鑄銭司郷土館前にて



雪舟庭園を迎える禅寺の門

中国 西安・咸陽の旅で学んだこと

山口七夕会・顧問 奥原 保（会員 No. 330）

2025 年 6 月 18 日～21 日の 3 泊 4 日で中国の西安・咸陽を旅してきた。喜寿のお祝いということで、家内から一人での海外旅行の許可を得る。2017 年インド仏蹟巡礼以来海外での一人旅は 8 年ぶりとなる。クラブツーリズム催行で、幸い A ランクホテル・一人泊追加料金なし・同一ホテル 3 連泊といった好条件で、見所満載の快適な旅となった。

西安は秦、漢、隋、唐など 13 の王朝が 1100 年に亘って都をおいた古都長安である。かつてはシルクロードの出発点であり、唐代では東西の人や物が行き交う、世界最大の国際都市。今でも市街地は城壁で囲まれ、古都の趣きを強く残す。

先ず見学したのは、秦始皇帝時代の兵馬俑。世界 8 番目の不思議と呼ばれ、1974 年に発見されそのスケールの大きさに世界が驚かされた。秦始皇帝の時代は紀元前 200 年ごろで、日本はまだ弥生時代、ここで中国と日本の歴史的時間のズレを感じざるを得なかった。最近 NHKBS で盛んに放映されているように、始皇帝の人物像が変化しているのが、兵馬俑の遺跡からくみ取ることができる



兵馬俑

今回の旅で自分の眼で最も確かめたかったのは、日本の文化に多大な影響を及ぼした、青龍寺の空海記念碑と興慶宮公園の阿倍仲麻呂記念碑。空海は凄まじいスピードで奥義を取得し、師である恵果和尚から 3 か月で阿闍梨という最高の灌頂位を授かった。ここでガイドから笑いをとったのは、食事もせずに修行に没頭した空海に向かって、他の修行僧が叫んだのは「食事くうかい」だったそうな…。空海記念碑の前では、ガイドや他の観光客を先に行ってもらい、般若心経をお唱えした。終わったあと振り返ると数名合掌していたのに気が付き、何だか仲間意識が芽生えたような気がした。因みに青龍寺は四国八十八か所 0 番札所となっている。



空海記念碑

阿倍仲麻呂は遣唐使の留学生として唐に渡り、秀でた才に恵まれ異国の地で大出世を遂げた。一度は帰国を果たそうとしたが、船が遭難しベトナムに流れ着き、そこから苦労の末長安にたどり着くことができた。そして帰国を果たせぬまま 73 歳で長安の土となった。

百人一首に「天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも」の阿倍仲麻呂の望郷の念を込めた歌がある。空間的・時間的に表現した和歌であり、仏教でいえば「三世十方のいのち」と相通ずるものがある。阿部仲麻呂記念碑の前では、当時の心境がいかなるものであったか、そして時間的・空間的に生かされている自分自身の存在を見つめ直すひとときでもあった。

大雁塔は、652 年に唐の高僧玄奘三蔵がインドから持ち帰り、経典や仏像などを保存するために、高宗に申し出て建立された。中心街にあり西安のシンボルの塔となっている。インド仏蹟巡礼旅行時、仏教



阿倍仲麻呂記念碑

のナーランダ大学を見学したのを思い出し、玄奘が長安から天竺のナーランダ大学に行き、大般若經典などを完成し持ち帰ったことに改めてそのスケールの大きさを感じた。

今回の旅では遺跡を中心に写真を撮りまくったが、数少ない人物写真の中で明代の城壁の上で撮ってもらったものを挿入する。西安は中国を代表する、城郭都市である。東西に 4.2 キロ、南北 2.6 キロ、周囲 13.7 キロの城郭に囲まれている。現代の城壁は唐代のものを基盤に、明代に築かれたもの。



明代の城壁の上で

初日の夜のオプションでは唐舞ショー。元安倍首相や福田首相が観劇した現地の本物のショーとの前宣伝があり、劇場に向かった。則天武後の生涯を描いた内容で、日本でいえば歌舞伎、西洋ではオペラのように大変見ごたえがあった。スマホでの動画録画 OK は日本の劇場では考えられなく、随所で録画することができた。砂漠のラクダを背景にした踊りは、さしずめオペラ「イーゴリ公のダッタン人の踊り」の中国版といったところ。また迫力のある戦乱のシーン、後半の則天武后が仏教に帰依する場面では、バックに般若心経の文字が乱れ飛び、最後まで飽きさせない唐舞ショーであった。二日目の夜は西安の夜景見物、きらびやかなネオンの輝き、不夜城で毎晩観光客・地元の市民 30 万人が西安の繁華街に繰り出すとのこと。

4 日目は早朝の便で帰国するだけの日程。成田まで 5 時間のフライト中、今回の古都の旅をふりかえる。8 年前のインド巡礼、今回中国仏教が日本にどのように伝わったか、座学だけでは自分のものにならず、自分の眼で確かめることが重要。自身は禅の修行を通じて仏教の奥義を深めんとしているが、今回は主として真言密教の伝道について確認することができた。

お釈迦さまの仏教開祖は 2500 年前、中国禅の開祖は AD530 年ごろの菩提達磨、六祖慧能が初唐の AD600 年から 700 年前半に禅の体系を築き曹洞禅、臨済禅と展開される。玄奘が天竺に渡ったのと時を同じくする。空海は 800 年初頭、唐より帰国し密教を伝える。

日本は仏教国であるが、密教、禅宗、浄土系などさまざまな宗派がひしめき合っておりそれぞれの宗派の教義を理解するのは大変困難なことである。ただお釈迦さまの教えは極めてシンプル。諸悪莫作・衆善奉行・自浄其意・・・すべての悪をなすことなく、すべての善いことを行う、そして自分の心を清める。我々日本人は日本仏教のすべての宗派の教義に共通するこの言葉を大切にしていきたいものである。そうこう考えているうちに、飛行機の心地よいエンジン音の振動で深い眠りについた。成田空港の手荷物受取所で旅行中親しくなった方と出会い、空港のカードラウンジでお茶することになった。幸運なことに缶ビール 1 本サービス、旅行中はアルコールを我慢していただけに、ビールの味の美味しかったこと。

おわり

半日観光から滞在型へ 一五重塔を起点とした山口市の可能性ー

本部幹事 影山 絵里子（会員No.793）

山口市七夕会の幹事になりました、影山です。

昨年のちょうど1年前に会報誌に投稿させていただきました。その時は、ニューヨークタイムズで山口市が三番目に選ばれたということで、紹介された場所を中心に2万5千歩歩いたというものでした。

私は、大学卒業後大手旅行会社へ入社しました。卒業後も海外に関わる仕事をしたいと思っていましたし、初めて海外との接点を持った旅行が印象的で多くの方に海外のすばらしい経験・思い出を作るお手伝いができたらと思い旅行会社を選びました。

初めての海外旅行は、高校1年の時に春休みを利用した父との2週間のヨーロッパ旅行でした。山口市に住んでいる私にとっては、周りにヨーロッパへ旅行に行く人もおらず、本当に未知の世界でした。

父は、海外旅行に慣れており、下調べも好きな人なので、イギリス・スコットランド・フランスの周遊はすべて2人で公共交通機関を使い、回りました。当時は、スマホなんかはなく、旅の途中では道に迷ったり、何日間は宿泊予約をせずだったためガイドブックに載っている宿泊(B&B)を中心に歩き回って探したり。その中で、直接英語で現地の人と話し触れ合う機会もでき、個人旅行の旅の醍醐味や経験ができました。

旅行する際には、公共交通機関が発達している都会はもちろん便利でいいのですが、地方では移動の便が悪いからこそ、その待つ時間を有効活用して寄り道や街歩きができ、場合によっては地元の方たちとの出会いがあるかと思います。

山口市は、残念ながら？観光スポットを効率よく回ってしまうと半日で終わってしまいます。なので、地元のよさを味わってもらうには、街歩きが必要だと思っています。

話が少しそれますが、岐阜が今外国人に爆人気なのをご存じでしょうか。旅先を選ぶ理由は、日本の文化・歴史・自然が凝縮しているからだそうです。白川郷、飛騨高山、関ヶ原、長良川の鵜飼・・・・新幹線はひかりとこだまのみの岐阜羽島駅だけ、空港はなく、観光スポットに行くには交通の便がいいとは言えません。

1995年に白川郷・五箇山の合掌造り集落がユネスコの世界遺産に登録された後、岐阜は海外の人をよぼうプロジェクトを立ち上げており、1996年にはパンフレットなどでの11か国対応を開始したそうです。

30年経った現在は、JNTOの2024年の外国人の延べ宿泊者数ランキングで岐阜は17位。山口は41位です。宿泊者数でいうと差は10倍となっています。

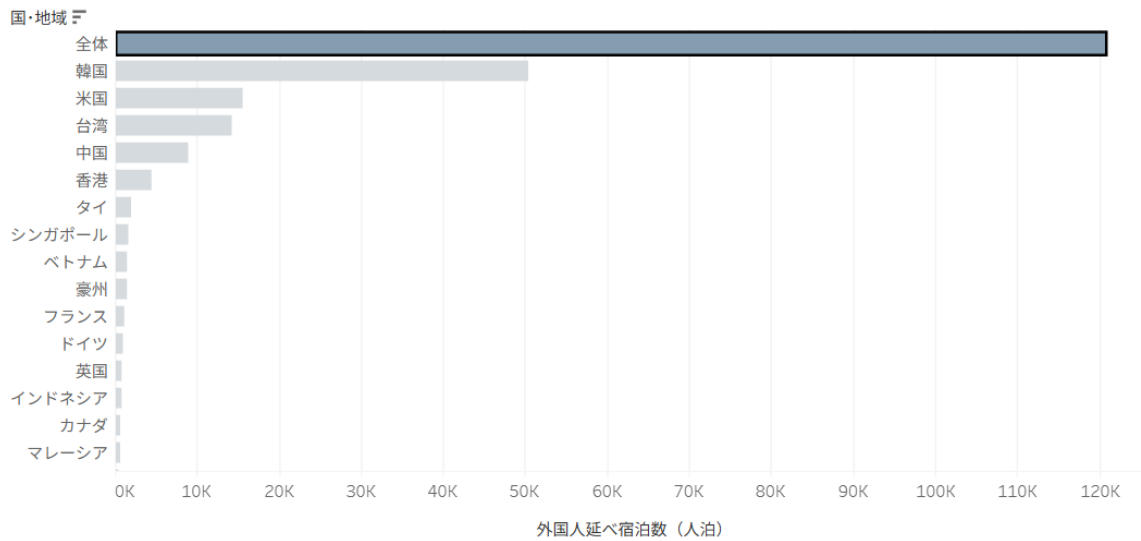
延べ宿泊者数の桁が違うので単純な比較はできないのですが、旅行者を国別でみると、山口は圧倒的に近場の韓国が多いです。これから少しずつ浸透させていき、長期滞在がメインの欧米の方たちに山口滞在型旅行を体験してもらいたいなと思っています。

山口は交通の便が悪いから薦めることに気が引けるという話も聞きます。観光地に光るものがあれば、どんなことがあってもそこに行きたい！となるのだと私は確信しています。

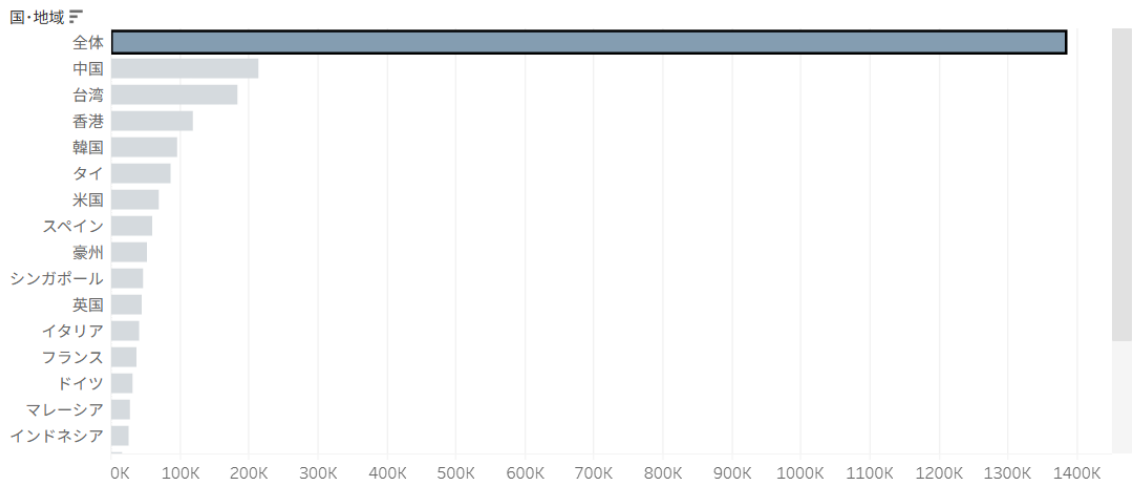
山口市でいえば、やはり瑠璃光寺五重塔かなと思いますが、もっと光らせるコンテンツにできるといいなと思っています。

海外の旅行者を想定し、自然や景色を楽しめるように自然を絡めて萩往還を歩くルートをPRすることも考えられます。

2024年 都道府県別外国人延べ宿泊者数（山口県）



2024年 都道府県別外国人延べ宿泊者数（岐阜県）



出典元：日本政府観光局（JNTO）

五重塔の周辺で過ごす1泊2日など、周りの住民の方を守るために大きくならない規模での宿泊施設もあるといいかもしれません。これは私の妄想です。

必ず意識をすべき点は、オーバーツーリズム対策です。これは、山口に来た観光客に最高の思い出となる体験をしていただくことはもちろんですが、山口に住む方たちの生活環境を守ることも絶対だと考えています。

岐阜の白川郷もユネスコの世界遺産に登録されて30年。いろんな課題に直面していたと思いますが、インバウンドツーリズムの経験の中で集落内への車の乗り入れ制限、夜間観光の制限、ごみ持ち帰りの原則など、生活者との共存ができるような取り組みもしており、参考にできるとしています。

いろいろ構想は尽きませんが、みなさんだったら、今の瑠璃光寺五重塔が注目されるためにはどういうことを考えますか？

わたしと「やぎさん」

山口七夕ふるさと大使 梶山 俊哉（会員 No. 579）

ガチャが人気である。先日訪れたある町には、2 階までのフロアのすべてがガチャの機械で埋め尽くされた店舗があり、壮観であった。ここ山口市でも、市内の各中学校のジャージをデザインしたキーホルダーガチャが、特に好評であったと聞く。かく言う私も、ガチャには目がなく、山口ゆかりのガチャを見つけると、なかなか素通りできない。

少し前の話となるが、山口市ゆかりの懐かしいアイテムで構成された「山口市がちゃ Vol.1」の、8 アイテムが全て揃った時には小躍りしたものである。

その中でも「ちまきや」は、私にとって思い出多き場所のひとつであり、大切なアイテムである。1855 年創業の八木呉服店をルーツとする「ちまきや」は、現在の山口井筒屋につながる山口県初の百貨店である。「ちまきや」の創業者である八木宗十郎さんの名前にちなんだマークも印象的であったが、私のこまい頃は、「ちまきや」を「やぎさん」と呼んでいた。



山口市の平川で生まれ育った私にとって、「やぎさん」に行くことは町に行くことであり、「やぎさん」での時間は今でも忘れがたいものとなっている。お子様ランチを食べ、屋上遊園地で遊び、地下で量り売りのお菓子を買って帰るのは、当時最高の贅沢であった。

また、大学卒業後に勤務した損保会社では、入社式後の4月中旬から約一ヶ月間、地元の山口支社で研修を受ける機会があった。その期間中に初任給が支給され、母をつれて「やぎさん」に行き、ハンドバッグを購入したのも良い思い出である。

ところで、人のご縁というものには不思議なものである。東京に勤務していた 2010 年代、山口県東京事務所が主催する都内の長州ゆかりの場所を巡る長州ウォークに参加し、当時の山縣正彦七夕会幹事長(※)に誘われるまま七夕会の会員となった。そして七夕会で出会ったのが当時の八木重二郎七夕会会長、「やぎさん」の経営に長く携わられた三代目八木宗十郎さんの弟さ

らである。数年後に、七夕会の副会長・本部長となった私は、八木会長を支え、七夕会の運営に関わることになるが、大手企業や団体の重責を担われた八木会長から学んだことは実に多く、今も感謝している。

「やぎさん」は今では山口井筒屋となったが、井筒屋さんは単なる百貨店ではない。催場で開催される数々の魅力あるイベントもさることながら、ここ数年、YCAM とタイアップして期間限定で開催される「コロガルあそびのひやかてん」では、毎回様々な工夫が凝らされ、多くの子どもたちが歓声をあげながらはしゃぎ回っている。この 8 月 6 日、7 日には、山口七夕ちょうちんまつりに合わせ、「夜のコロガルあそびのひやかてん in 山口七夕ちょうちんまつり」が開催され、子どもたちがワークショップでプログラミングしたデジタル提灯も公開された。



こまい頃、私に夢を与えてくれた「やぎさん」は、今は「井筒屋さん」となって、現代の子どもたちに夢を与え続けてくれている。「井筒屋さん」でたくさんの思い出を作った子どもたちが、将来の山口市を支えてくれる存在になるものと信じている。ありがとうございました、「やぎさん」。これからも宜しくお願いします、「井筒屋さん」。

(※)山縣正彦元幹事長は令和元年 12 月に逝去されました。また、山縣さんともども、本部長であった私を支えてくださった武内衛子本部顧問がこの 8 月に逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

写真左上:「山口市がちゃ Vol.1」のちまきやキーホルダー
写真左中:私の家の納戸に保管されている「やぎさん」の包装紙と紙袋。

写真右上:山口井筒屋でこの夏に開催された「コロガルあそびのひやかてん」の看板

＜ 新入会員(個人会員番号・氏名)及び法人会員の皆さん ＞

《令和7年6月号掲載以降の新入会員》 ※氏名、住所は公開会員名簿への掲載承諾者のみ

会 員 番 号	氏 名	住 所	法人会員
903	鯨井 頌弘	埼玉県熊谷市	山口日産自動車株式会社
904	安光 孝代	山口県山口市	旭水産有限会社
905	田中 杏侑	山口県山口市	株式会社 常盤
906	住田 信子	神奈川県川崎市	株式会社 地域情報新聞
			株式会社 技工団
			有限会社 劇団角笛
			マルシフードサービス株式会社
			社会福祉法人青藍会
			株式会社セブンシステム
			株式会社ベルミューズ
			一般社団法人日本自動車連盟山口支部(JAF 山口支部)
			BRAIN SIGNAL 株式会社
			弁護士法人 末永法律事務所
			株式会社アドギルド・ジャパン
			公益社団法人 山口被害者支援センター
			株式会社 小郡衛生公社
			株式会社 エフエム山口東京支社
			株式会社 竹内酒造場
			C & C 山口
			湯田温泉旅館協同組合
			公立学校共済組合山口宿泊所 セントコア山口
			株式会社 クリエイティブ・トゥエンティワン
			株式会社 エボリューション

令和7年8月25日現在の会員数：個人会員379 法人会員23

＜ 山口七夕ふるさと大使委嘱者 ＞

	会員番号	氏 名	類別	備 考
1	632	川瀬 真人	新任	年次総会（東京7/5）委嘱
2	640	浦前 忠彦	新任	年次総会（東京7/5）委嘱
3	703	山本 秀樹	新任	年次総会（東京7/5）委嘱
4	29	徳久 徹	再任	年次総会（東京7/5）委嘱
5	172	白洲 宏	再任	年次総会（東京7/5）委嘱

役員一覧（令和7年7月5日現在）

役員一覧（令和7年7月5日現在）			
＜山口七夕会役員＞		変更部：下線または黄色ハッチング	
	役職名	氏名	担当
	会長	秋草史幸	代表、総会・評議員会議長
	副会長・評議員	藤井謙志	会長補佐 兼 本部長 兼 個人情報取扱責任者
	副会長・評議員	申神正子	ふるさと山口本部本部長
	評議員	関 周	本部幹事長 兼 会計
(新)	評議員	住田輝明	ふるさと山口本部本部事務局長
	監査役	大枝幹夫	本部担当
	監査役	伊藤満宏	ふるさと山口本部・事務局担当
	顧問	石田順康	
	顧問	山本和生（在山市）	
	顧問	八木重二郎	
	顧問	渡辺純忠（在山市）	
(交代)	顧問	山崎直和（山口県東京事務所長）	
	顧問	奥原保	
	顧問	渡邊史信（在山市）	
＜本部役員＞			
	役職	氏名	役割
	本部長	藤井謙志（再掲）	本部統括・ゴルフ部会長
	本部長代行・機関紙編集長	西村弘文	広報統括（東京・山口）・会報編集長
	副本部長	岡本達也	本部長補佐・情報発信
	幹事長	関 周（再掲）	本部会務総括・会計
	副幹事長	村中正司	幹事長補佐（関西常駐）
(退任)	幹事	岡崎龍也	会計補佐
	幹事	田村廣修	山口七夕会ホームページ管理
	幹事	小野美穂子	イベント企画
	幹事	神原昭彦	会員増強
	幹事	吉田美香	SNS担当
(新)	幹事	山本秀樹	イベント企画
	幹事	影山絵里子	観光・物産PR
	顧問	武内衛子	本部顧問（8月、ご逝去により欠）
	顧問	山根和也	本部顧問
＜ふるさと山口本部役員＞			
	本部役職	氏名	令和7年ふるさと山口本部役職
	副会長・評議員	申神正子（再掲）	本部長
		松西照美	副本部長
(新)	評議員	住田輝明	事務局長
		庄栄一郎（再掲）	事務局長補佐
		柴田尊明	事務局長補佐
		中野邦夫	会計
		関 和貴	事務局・楽農部会長
		嘉瀬 修	事務局・日本酒部会長
		吉原真也	事務局
		杉本理恵子	事務局
		森永友世志	事務局長補佐
		山下りえこ	事務局・音楽部会長
		渡邊史信	事務局
		河村 香	事務局・日本酒部会長補佐
(新)		奥田 和彦	事務局・楽農部会長補佐
		木橋奏子	事務局・音楽部会長補佐
	山口七夕会顧問	山本和生(再掲)	
	監査役	伊藤満宏（再掲）	

イベント等のお知らせ

＜ 第 40 回日本国際保健医療学会学術大会にブースを出展 ＞

山口市と山口セタ会をPRするブースを出展します。

- 日時：令和7年11月1日（土）～2日（日）
- 場所：帝京大学板橋キャンパス（東京都板橋区加賀）
- メインテーマ：いたばしから世界へー地域社会に根差したSDGsー
- 大会長：山本秀樹（帝京大学薬学部教授）（山口セタふるさと大使）

※市民公開講座は無料で聴講できます。同封のチラシにある学会HPから申し込みができます。

＜ 山口セタ会 第12回八木重二郎杯 会員親睦ゴルフ ＞

- 日時：令和7年11月11日（火）8：40 キャディーマスター室前集合
- 場所：オリムピックナショナルGCウエストコース
埼玉県入間郡毛呂山町滝ノ入1724
- 会費：プレー費＋飲食費（昼食/表彰式：各自精算）、プレーフィー13,500円（キャディーなし）
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

＜ 紅葉ウォーキング ＞

- 日時：令和7年11月16日（日）09：30～12：00
- コース：有楽町駅～築地場外市場～浜離宮～旧芝離宮～浜松町駅周辺
- その他：引き続き、「秋の交流会」に参加できます。
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

＜ 秋の交流会 ～新企画～ 山口の味てんこもり ＞

- 日時：令和7年11月16日（日）12：00～15：00
- 場所：別邸 福の花（東京都港区浜松町2丁目2-6 大塚ビル）
- 会費：6,000円
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

＜ 令和7年度ふるさと山口本部「秋の講演・交流会」 ＞

- 日時：令和7年10月18日（土）18：00～21：00
- 場所：セントコア山口（山口市湯田温泉3丁目2-7）
- 講師：江端希之（三坂神社宮司、京都大学アフリカ地域研究資料センター特任助教）
- 会費：8,000円（非会員は8,500円）、講演会のみは1,000円
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

＜ 令和 7 年度ふるさと山口本部 第 9 回酣祭 ＞

- 日時：令和 8 年 3 月 7 日（土）18：00～21：00
- 場所：セントコア山口（山口市湯田温泉 3 丁目 2-7）
- 講師：新谷文子（わかむすめ醸造元 新谷酒造（株）杜氏）
- 会費：8,000 円（講演会のみは 1,000 円、非会員は+500 円）予定

＜山口市役所より＞

山口市総合政策部 企画経営課

《tel》083-934-2746

《E-mail》kikaku@city.yamaguchi.lg.jp

< 会報山口七夕会への投稿を募集します >

1. 大使の一言(「山口七夕ふるさと大使」の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)
2. 私の一言(会員の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)

★テーマの一例

- (1) 山口市に関する豆知識
- (2) 山口県外にある山口ゆかりのものや活動
- (3) 今、思っていること

★字数

1,200 字程度の文章と写真 2 枚程度を基準。紙面構成上、フォント、行間等を調整します。

★投稿締切

1月号(12月中旬まで)、6月号(5月中旬まで)、9月号(8月中旬まで)、

★投稿提出先

下記に電子データ(Word 形式)でお送りください。

会報山口七夕会編集長(西村 弘文):joe-levin01@outlook.jp

< 本部役員を募集しています >

本部(東京)では、役員を募集しています。

少ない力を集め、無理なく継続的な運営をしていきたいと考えています。我々と一緒に山口の良さをアピールしたい、新しい企画を創造して山口七夕会を盛り上げていきたいという方は、本部長代行の西村までご連絡ください。

連絡先 : joe-levin01@outlook.jp

< 重要 > < 公開会員名簿への掲載承諾のお願い >

会員相互の交流促進や会の活性化に役立てばと、記載事項を限定した「公開会員名簿」を作成・発行しました。作成に当たっては、名簿への記載についての承諾を必要としておりますので、趣旨に賛同していただける方は、記載を承諾する旨を下記まで連絡願います。

「公開名簿で懐かしい名前を見つけて交流が再開した」といったことになればと考えています。

記

メールの場合 : seki@8011.jp (関 周 宛)

郵送の場合 : 〒114-0034 北区上十条 3-3-16 関 周 宛

<重要> < メールアドレス登録のお願い >

2025 年、山口セタ会はライブや各種イベント、ウェブ抽選会など「新しい企画」にどんどん取り組んでいきます。

新しい企画はメールを主用してご案内していきますので、メールアドレスの登録をお願いします。

現状、個人会員 379 名のうちメールアドレスを登録されている方は 251 名ですが、その内の 37 名は送信不能の状態です。既に登録されている方も確認のため再度登録をお願いします。

【登録方法】

●QRコードリーダー付きのスマートフォンから登録される方は、右のQRコードを読み込んでください。



●パソコンから登録される方は、本文にご自分のメールアドレスを入力して、「seki@8011.jp」にメールを送信してください。

【事務局からのご案内】

◎転居されるご予約のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと会報 山口七夕会や市報等の資料が届かなくなってしまう)

◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)

◎会の運営等に関するご意見があれば下記までお寄せください。

★事務局(山口市企画経営課内) 〒753-8650 山口市亀山町2番 TEL 083-934-2746
kikaku@city.yamaguchi.lg.jp

【編集後記】

この度、機関誌編集長に再登板しました。またよろしくお願いします。

10月9日に「地球の歩き方 山口市」が発売開始されます。地元ネタがふんだんに収められていると聞いており、非常に楽しみです。山口市役所からのお知らせページにあるQRコードから内容紹介が見られますので、気になる方はチェックしてみてください。一括予約をした特典で、本の奥付に「山口七夕会」が表記されていることにも注目しています。奥付を見た当会のホームページの閲覧者、ひいては入会者が増えるかも？と、期待しています。ちなみに、当会の法人会員である技工団さんも一括予約されて、表記されています。発売を通じて山口市を訪れる旅行者が増えることに大いに期待していますが、在住者も新たな発見ができるかもしれませんね。

公開つながりで言うと、当会会員の林 花音さんが10月24日に公開される映画「富士山と、コーヒーと、しあわせの数式」(監督:中西健二、脚本:まなべゆきこ)に出演しています。役どころは映画の原作となった「信用はデパートで売っていないー教え子とともに歩んだ女性の物語ー」の著者で文京学院創設者の島田依史子役です。他にも、当会には芸能活動をされている方がおられます。歌手であれば関周さん、吉田美香さん、山口蘭子さん、ちひろさん。これらの方々は衆目を集めているわけで、当会の会勢拡張における「成長ドライバー」です。会員の皆さんもふるって応援をお願いします。

機関誌編集長 西村 弘文